

非営利法人ニュース

2021年
1月号
Vol. 92



発行 公益総研 非営利法人総合研究所
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

★★ 返済のない奨学金のお知らせ ★★

【1】「中村道子奨学金」

『介護福祉士を目指す専門学校の第1学年生対象』

- 応募資格：一都三県（東京・神奈川・千葉・埼玉）の介護福祉士を目指す専門学校の第1学年に在学し、2022年3月に卒業見込みの学生
- 募集期間：2021年2月7日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は6名程度を採用します
- 給付等：専門学校1年間（12か月）、年額50万円を支給します

【2】「シャンティ奨学基金」

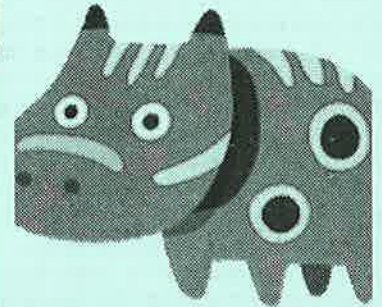
『関西2府4県の大学文系女子学生向け奨学金！』

- 応募資格：大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県の大学の文系学部在籍する四年生大学の2回生または3回生の女子学生
- 募集期間：2021年1月末日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は1名を採用します
- 給付等：年額50万円を支給します。

【3】「2021年度JL奨学生」

『中学3年生対象 高校奨学金募集中！！』

- 応募資格：日本国内の全日制高校に進学する2021年3月に卒業見込みの中学3年生
- 募集期間：2021年1月31日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は若干名を採用します
- 給付等：高校3年間（36か月）、月額2万円を支給します



◎情報満載！今月のもくじ◎

奨学金情報	1
非営利法人関連情報	2,3
CEOコラム	4
編集後記	4

☆奨学金応募先等☆

【1】【2】【3】奨学金

→公益財団法人公益推進協会

応募用紙等郵送先
〒105-0004
東京都港区新橋6-7-9
新橋アイランドビル2階
(公財)公益推進協会
担当 高野宛

- ・中村道子奨学金
- ・シャンティ奨学基金
- ・JL奨学生

お問い合わせ
03-5425-4201
(問合せ対応時間:平日10時~18時)

※詳しくは、財団ホームページ（<https://kosuikyo.com/>）をご覧ください、
申込書等はHPよりダウンロードし、必要事項を記入して提出してください

※奨学金、助成金情報はリンクフリーですので、ご自由にリンクしていただき情報提供をお願いいたします

★非営利法人関連情報★

新しい子ども食堂めざすキッチンカーを活用

【こどもオポチュニティーズクラブ基金の助成先団体の記事です】JR相模原駅近くのホールで子ども食堂を開いてきた「NPO法人アフリカヘリテイジコミティ」は来年から、キッチンカーによる「青空食堂」をスタートさせる。理事長のトニー・ジャスティスさんは、新型コロナの感染拡大が広がる中、新しいスタイルの子ども食堂として定着させたい考えだ。トニーさんが立ち上げた子ども食堂は、出身地であるガーナにある部族の言葉で「兄弟・仲間」という意味の「ノヴィーニェ」という名が付けられ2015年にオープン。以来、市内で一人で食事を取らなければならない環境にいる子どもたちなどが、「みんなで楽しく食事や会話を楽しめる場」として定着してきた。5年目を迎えた今年はじめには、100回開かれる「食堂」に1回につき、大人を含めた100人近い利用があったのだという。トニーさんは「多くの皆さんの力添えでやってこられた。感謝の言葉しかありません」と振り返る。そんな中、起こったのが、新型コロナウイルスの感染拡大。3密となりうる室内での食事は「危険」とされたことから、トニーさんは子どもたちの安全確保が第一と、3月には同様に開いてきた横浜市の子どもの食堂と共に相模原の拠点を閉鎖。無料の弁当を配布する形に切り替えた。ただ、ボランティアの協力の元、子どもたちに弁当を手渡ししながら抱いたのが「一緒に食べたい」という思いだったのだという。トニーさんが考える子ども食堂とは、食事を提供する場だけでなく、子ども、大人に関係なく食卓を囲み、コミュニケーションを深めることでみんなが笑顔になる場所。現状を踏まえ何とか「めざす場」を得られないかと考える内に浮かんだのが、キッチンカーを使った「青空食堂」だったのだという。「元々、これからの時代、持続可能な仕組みづくりが必要と考えていたところ。公園など野外にキッチンカーで出向くことができれば、密を避けられ、子どもたちに温かい食事を提供できると思ったんです」とトニーさんは振り返る。8月にはプランを公表し募金を募り、多くの賛同の元、先ごろ、大型のキッチンカーを購入することができたのだという。トニーさんは「本当にありがたいこと。現在は車の整備を進めているところ。来年の1月下旬以降に運行できると思います」。トニーさんが考えるキッチンカーを使った「青空食堂」はこうだ。拠点である現在のホール近くにある複数の公園をまわり、現在通ってくれている子どもや大人たちのほか、これまで遠くて通えなかったという人たちにも門戸を開放したいと考えたという。また、食堂を開設以来開催してきた、子どもたちに学びを提供する「こども寺子屋」も食事の後に場を「提供していきたい」とトニーさんは話す。「それは横浜の方も一緒。より多くの子どもたちに利用してもらえるようになれば、新しい子ども食堂の在り方として定着させていきたいと考えています」。アフリカヘリテイジコミティでは引き続き、子ども食堂や寺子屋の運営に使用するための寄付を募っている。（タウンニュース12月17日）



大学生の思いがステッカーに子ども食堂支援

沖縄県内の子ども食堂に食料を寄付しようと、北九州市立大学に通う県出身の大学生2人が新型コロナウイルス対策の特別定額給付金からお金を出し合い、チャリティーステッカーを制作した。ステッカーには沖縄のお守り「サングワ」がモチーフとしてデザインされている。「コロナや事故から守ってほしい」という思いも込めた。購入者への優しさも上乘せされたステッカーは、関係した人々の協力を受けながら完成した。企画したのは浦添市出身の西原愛奈さん、沖縄市出身の鈴木穂乃花さんの2人。高校卒業後に北九州市に引っ越したが、新型コロナの影響で入学式も行えず、沖縄にとんぼ返りすることになった。県内でオンライン授業を受ける中、何度も会うようになり「沖縄のために何かしたい」と意気投合して行動に移した。当初は給付金を寄付しようと考えたが、支援を必要とする子どもたちがいることを、より多くの人々に知ってもらいたいと考え、ステッカーを制作することにした。日本トランスオーシャン航空の「島くとびシート」を手掛けた、県内在住のイラストレーターcoeriさんにステッカーのデザインを依頼した。デザイン料を支払う予定だったが、趣旨を告げると無償で引き受けてくれた。印刷は西原さんの母親の知り合いがいる、うるま印刷に依頼して、安価で協力してくれた。2人が受け取った給付金から初期費用5万5千円ほどを出し、ステッカー500枚を準備した。1枚500円、学生には1枚300円で販売する。売り上げは20万円となる見込みで、5キロ1500円のお米だと133袋購入できる計算になる。10月中旬に完成し、既に6万円分を売り上げた。西原さんは「いろんな人の協力で完成できた。とても感謝している」と話した。鈴木さんは「子どもたちが食べ物に困らず、笑って過ごせたらいい」と思いを込めた。ステッカーはハートのキャラクターがサングワを抱えるような絵が描かれ、「ともに守ろう 沖縄の未来」とのメッセージが添えられている。（琉球新報12月21日）

スマホで視覚障害者の街歩き手助け

視覚障害者が1人で自由に歩けるように、スマートフォンのアプリでカラフルなタグを読み取り、音声案内を聞くことができる「ナビレンズ」の実証実験が、神戸市立神戸アイセンター病院内で始まった。同病院と公益社団法人「NEXT VISION」、NPO法人「アイ・コラボレーション神戸」が今後1年かけて日本で初めて取り組む。ナビレンズは、情報を埋め込んだ黒、青、黄、ピンクのタグを専用アプリで読み取ると、タグからの距離や方向、埋め込まれた情報を音声で知らせてくれる。最大16メートル先から読み取ることができ、インターネット接続がなくても利用できる。アプリは無料でダウンロードできる。スペインの民間企業と大学が開発したもので、パルセロナ市内には多くのタグが設置されているという。同NPO法人がその性能の良さを知り、日本での普及を計画。日本初の実証実験を同病院で始め、神戸市内で広めようと意気込む。トイレに設置するタグを読み取ると、トイレまでの距離とともに右側3メートル先に女性用、その先2メートルに男性用があることなども案内。自動販売機のタグでは商品名も順番に案内する。30以上の言語で聞くことができるため外国人にも便利で、パルセロナで日本語の案内を聞くことも可能だ。22日にオンラインで開かれた同公益社団法人主催の「ロービジョンの集い」では視覚障害者らがナビレンズを体験し、「電車のホームで使えば、転落事故の危険が減るんじゃないか」などと普及を期待した。（神戸新聞NEXT12月24日）

* 内容に関しては、問合せ先に直接問合せをお願いします

起業の心構え学ぶ オンラインで実践塾

地域での起業や人材育成を支援する「まちごとファクトリー」の実践塾が12日、オンラインで開かれた。学生や社会人70人が、徳島ゆかりの経営者らから起業の心構えを学んだ。認定NPO法人グリーンバレー（神山町）の大南信也理事が、若者や移住者を呼び込んで働く場としての価値を高める「創造的過疎」という考えに基づく同町のまちづくり事例を紹介した。芸術家を招く「アーティスト・イン・レジデンス」や、商店街に起業家を誘致する独自の取り組みを経て、新たな人の流れが生まれた地域内の経済循環につながっている」と話した。三好市三野町で「カフェ&カルチャー クレヨン」を運営する藤田梢代表は、起業のきっかけや、自身が携わる地域活性化の取り組みを発表。「行動と思いを発信し続けることが成功につながる」と訴えた。起業を目指す受講生によるプレゼンテーションもあり、地域の暮らしを楽しむ「パエ工房兼ゲストハウスの開業」といった事業計画を披露した。（徳島新聞12月13日）

高齢化の町、住民同士で助け合い

京都府福知山市夜久野町の住民団体が、掃除やごみ出しなどで困っている人を有償ボランティアが支える仕組みを作る。高齢化が進む地域で住民に安心して暮らしてもらう目的で、来年3月中にスタートさせる。「夜久野町がいまづくり協議会」が事務局となる「暮らしのささ愛事業」。福祉関係の職員や民生委員らでつくる同協議会福祉・あんしん部会のメンバーから提案があり、準備を進めている。事業の利用者と協力者は夜久野町在住者に限定する。年齢や資格は問わない。利用者からの依頼内容を事務局が確認し、協力が見つければ紹介する。依頼できる作業は家具の移動や部屋の模様替え、洗濯、庭の草引き、水やりなどを想定している。危険を伴う作業、車での買い物や通院の送迎などは対象外。利用は平日の日中、1回1時間程度で、利用者が500円を支払う。協力者の登録は始まっており、利用者の登録は来年1月に始める予定。同部会長の夜久昭広さんは「利用者ができるだけ協力者と一緒に活動することで、住民が顔を合わせ、信頼関係の構築にもつながる。住民同士が支え合う土壌を作りたい」と話している。（京都新聞12月22日）

買い物支援 高齢者らにタクシー料金補助

長崎県平戸市生月町のNPO法人、山田・館浦地区まちづくり運営協議会（川淵洋海理事長）は、高齢者らへの買い物支援としてタクシー料金補助事業の実証実験を始めた。12月まで1年間、利用状況を検証する。同協議会が昨年実施した住民アンケートで、高齢者を中心に買い物支援を求める声が多く寄せられた。これを受け、県市の担当者、専門家らを招いて検討を重ねてきた。同地区の75歳以上で運転免許証を持たないか返納した高齢者世帯、運転免許証を持たず障害者手帳を持つ家族がいる世帯が対象。500円券10枚を対象世帯に、1回だけ発行する。利用希望世帯は所定の申込用紙で申し込む。利用できるのは同町内を拠点に営業する生月タクシーだけ。同市が発行する「市高齢者いきいきおでかけ券」との併用が可能。同協議会事務局によると、同地区内の75歳以上の高齢者は約600人。7日、協議会事務局が入る同町の「和く話与交流館」で事業開始式があり、川淵理事長は「1年かけてニーズや利用者の声などを把握し、来年以降、どうするか考えたい」と話した。（長崎新聞1月9日）

統一サインで飲食店支援

長引く新型コロナウイルス禍の影響を受けた飲食店を支援しようと、足利市内有志の8事業者は、店内飲食可か持ち帰り対応かを示す市内統一サインを製作し、約600店に郵送した。特設サイトや会員制交流サイト（SNS）を活用して店舗情報も発信していく考えで、発起人となった市内のNPO法人「コムラボ」代表、山田雅俊さんは「感染第3波が広がりつつある中、分かりやすい掲示と情報発信で店舗利用を促したい」と話している。同法人は今年4月、市内飲食店のテークアウト情報を集約、発信する特設サイト「＃足利エール飯」を開発。運営1カ月で店舗利用客などから2千件を超える投稿が寄せられた。休業要請が解除された6月以降、「店内飲食は復活したのか」「テークアウト対応は継続しているか」などの問い合わせが目立つようになった。分かりにくさを解消するため、山田さんが7事業者に呼び掛け、統一サインの研究や店舗情報の再集約を進めてきた。統一サインは「イートインのみ」「テークアウトのみ」「いづれも可」の3種類。コロナ禍でのアイデア事業に助成する市の「個店連携応援事業」を活用し、A4判、両面カラーで、各700枚を製作した。デザインを手掛けた西宮町、グラフィックデザイナー鶴見裕也さんは、「一目で分かるようなピクトグラムを用い、広く浸透するよう心掛けた」という。配布先はインターネット上の公開情報から拾い上げた約600店。掲示依頼の手紙と共にメンバーが10日、伊勢町3丁目のカフェ「マフノテ」で1軒1軒丁寧に封筒に詰め、発送した。来年2月末まで、「＃足利エール飯」の特設サイトに無料で店舗情報の掲示、更新も行う。山田さんは「統一サインを基に店舗を利用したお客さんからも情報を発信していただき、一緒に盛り上げていきたい」と話している。（下野新聞12月17日）

食品ロス削減へ税優遇措置自動処理

食品事業者が賞味期限の近い食品などを生活困窮者を支援するNPO法人などに提供する際に、品目などをインターネットで入力して省力化するシステムを、神奈川県平塚市が作った。税の優遇措置を受けるための書類が自動的に作成されるといい、事業者とNPOの双方にメリットがあるという。システムは、市とNPO法人「フードバンクひらつか」（大関めぐみ理事長）が協力し、市内のシステム会社に依頼して作った。食品事業者がシステム上で食品提供を申し出ると、税制上の優遇を受けるための損金算入手続きに必要な合意書などが、自動的に作られる仕組みという。市によると、市内では未開封食品の廃棄物は年間約2千トン。事業者が食品を廃棄する場合は、処分費と運賃で10キロあたり600円前後がかかる。開発したシステムを使うと、NPOが食品を回収するため処分費と運賃はゼロになる。一定のシステム利用料を請求するが、食品事業者にとってのコストも低くなるという。フードバンク側は、これまでボランティアが手書きの台帳で食品を管理していたが、システム導入により、バーコードで読み取るなどして管理しやすくなるという。システム利用料はNPOの収入とし、これまでボランティアが自己負担していたガソリン代に充てる予定だ。市は、生活困窮者の支援に充てる食品を増やす一方で、食品廃棄物を減らす効果もあるとみており、市の担当者は「生活困窮者と食品提供会社、市の3者の『三方よし』が実現できた」と話す。フードバンクの担当者は「これまでは、ボランティアが帳簿に手書きして在庫を管理していた。高齢者が使いやすいシステムができた」と話した。システムは来年1月から本格稼働する予定。食品提供の申し出や、フードバンクから支援を受けたい人は、ひらつかフードバンクへ。（朝日新聞12月22日）

入院中の子どもたちが水族館をリモート見学

香川県内の病院に長期入院中の子どもたちに、カメラ付きのロボットを活用してリモートで四国水族館（宇多津町）を見学してもらうイベントが17日にあった。香川大の学生ボランティアらがロボットを運びながら館内を案内し、子どもたちは海の生き物の観察や大学生との会話を楽しんだ。小児慢性疾患を持つ子どもとその家族を支援する「NPO未来ISSEY」（丸亀市）が、移動が困難な子どもの通学支援などに使われるロボット「Orihime（オリヒメ）」を貸し出して実施した。香川大のサークル「児童問題研究会ひばり」の3人が台車でオリヒメを移動させ、館内の水槽やダライルカのプールを回った。香川大医学部付属病院など県内の2病院に入院する子どもたちが参加。病室内からオリヒメに搭載されたカメラの映像を見た子どもたちからは「イルカのジャンプすごい」「カワウソかわいい」などの声が上がっていた。香川大医学部4年の学生は「長期入院中の子どもたちが、周囲とコミュニケーションを取りながら過ごせるよう支援していきたい」と話していた。（毎日新聞12月17日）

人と熊の距離 ある対策で目撃回数減少

人里からヒグマを遠ざけることを目的に、北海道羅臼町で住民らがヒグマが身を潜めることの多い草やぶをなくす取り組みを行ったところ、目撃される回数が実際に減ったことがわかった。駆除とは異なる住民主体のヒグマ対策の効果が得られた格好で、人とヒグマの新たな共生に道を開くものと注目を集めそうだ。同町が、今年14日に釧路市で開かれた知床世界自然遺産地域科学委員会で発表した。同町は「知床財団」（斜里町）と協力し、共生を目的に人とヒグマのディスタンス（距離）を保つための独自の地域づくり計画を策定した。その具体策として、人里近くの草やぶをなくすこととし、今年5月から7月にかけて延べ176人の町民が参加して草刈りを行った。この結果、同町内でのヒグマの目撃数は、昨年度1年間が340件だったのに対し、今年度は11月25日現在で182件となった。同日現在で今年度は4か月以上残っているが、この間はヒグマが冬眠に入り活動が減ることから、同町は、今年度1年間の目撃数が昨年度を大きく下回るのは確実だとしている。羅臼町産業創生課の田澤道広主任は、「今後も草刈りを継続的に実施し、効果の検証などを行いたい」と話している。（読売新聞12月21日）

雪害対策 竹でハウス補強

能登地方を中心に大雪で農業用ハウスの倒壊が相次ぐ中、金沢市四十万で里山整備に取り組みNPO代表の西田敏明さんが、荷重に強く折れにくい竹を利用したハウスの補強策を提案している。「工夫を凝らして多くの人に試してほしい」と呼び掛けている。二本の竹をT字形に組み、ハウスの骨組みを支えるようにして固定する。片方の中央部分に切れ込みを入れ、もう一方は先端を凸型にすることでT字形に差し込める。西田さんは「竹用のコギリがあれば十分ほどできる」と手軽さを強調する。T字形の竹は2018年に試作し、18年1月の豪雪時に効果を試した。ハウス上部のパイプが雪の重みで変形し、耐えきれずに倒壊する被害が相次いだ。一方、竹で支えたハウスに被害はなかった。今年、能登地方で被害が起きたことを知り、「同じことが繰り返されてしまった」と悔やんだという。西田さんは「NPOみんなの畑の会」の代表を務め、荒唐した里山から竹を切り出す活動をしている。「里山には竹がたくさんある。雪害対策で有効利用してほしい」と話している。（中日新聞12月20日）

お一人さま最期支援 新事業を立ち上げ

「自分が死んだらお墓や遺品はどうすれば」と。とりわけ身寄りのない高齢者には切実な問題だ。そんな不安に寄り添い、最期までサポートする事業「家族の代わりに」を、秩父市のNPO法人「秩父こみにてい」が15日から始めた。代表理事で慈眼寺の住職でもある柴原幸保さんは、「いざというとき」のために早くから準備を整えておくことの大切さを強調する。「家族の代わりに」の対象は、身寄りも、頼れる親族もない秩父地域の五十歳以上の男女。身元保証をはじめ遺体安置、葬儀、納骨、永代供養、遺品整理、さまざまな事務手続きなどを支援する。18日に同寺で開かれた、初めての無料説明会。新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、四人限定での開催だったが、すぐに希望者で埋まったという。柴原さんは「それだけ緊迫した問題を抱えておられる方がいるということでしょうね」と推察する。実家である慈眼寺の住職になって20年あまり、僧侶として生と死を見つめてきた。近年は独身や死別、離婚など事情はさまざまながら、「お一人さま」と呼ばれる高齢者が増え、孤独死も珍しくない。「何とかしなければ」と考えていたところ、昨年かから今年にかけて孤独死の葬儀を三件執り行い、母親をみとった50代の独身女性からは「私が死んだらどうすれば」と相談を受けた。進学や就職で若者が次々と地元を離れる秩父地域も高齢化が著しい。「この事業を進めなければ」という思いに突き動かされた。「早い段階からつながりを築く必要があるということ。第三者が孤独死に立ち会ったような時でも、どこに連絡すればいいのかわかるようにしておくだけでもすごく大事なんだと実感したんです」。新事業の立ち上げを機に、「秩父こみにてい」の体制強化も考えている。その一つが若い世代のインターン受け入れだ。若い人や死は誰にとっても避けられないからこそ、若い人にも問題意識を持ってもらいたい。「週に一、二回でもいい。リモートによる参画も含め、若い人たちに加わってもらえるようなきっかけもつくってきたい。将来的には、各地の寺院とのつながりも増やしていきたい」と今後を見据える。「家族の代わりに」の無料説明会は今後、毎月第三金曜に開催していく方針で、来年1月15日の説明会も定員に達した。（東京新聞12月21日）

子どもに第三の居場所 世代間交流期待

放課後の子どもの居場所と学習支援の場を提供しようと、白河市のNPO法人ネクストしらかわは宿題やゲーム、プログラミングなどができる施設を開放している。施設の名前は「白河未来研究室」。同団体の坂本学理事長が「学校でも家でもない、第三の居場所が重要だと思う。私たち大人が駄菓子屋に集まっていたいろいろなことを学んだ空間を、今の子どもたちにも体感してほしい」と6月に開設した。施設には、学校帰りの児童や生徒が自由に訪れ、パソコンやゲーム機、ドローンなどを自由に使うことができる。居場所をつくるだけでなく、手の届く場所にパソコンなどの電子機器があることで、プログラミング教育やICT機器の使い方を自然に学ぶことも狙いの一つ。親世代や、高校生から小学生など、さまざまな年代の人が集まることから世代間交流の拠点としても期待する。毎日のように白河未来研究室を訪れている白河二小3年の児童は「ここにいるとみんなが宿題を教えてくれる。こればかりはたくさん来たい」と居場所に感謝する。同団体は、居場所提供だけでなく、自分で料理もする「未来子ども食堂」など、子どもの成長のためのさまざまな取り組みを行っている。坂本理事長は「子どもたちにとって楽しい場所であってほしい」と話した。（福島民友新聞1月1日）



「幸せになるのにいくら必要なの??」

公益総研株式会社 主席研究員兼CEO
公益財団法人公益推進協会 代表理事
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也



新年、明けましておめでとうございます。
と言う舌の根も乾かぬうちに、緊急事態宣言で自粛自粛がまた始まった・・・。本当に苦しくつらい日々はいつ終わり、私たち人類に幸せは訪れるのだろうかと思ってしまう。もういまや人類のほぼ半分くらいは、コロナが収まってくれることが一番の幸せになっているのではないだろうか？

そんな中、いくつもの研究が、幸福度は収入が増えるに応じて上昇する一方、ある金額まで達するとそれ以上は頭打ちとなり、収入と幸福度の相関関係がなくなることがわかった。アメリカ人45万人を対象としたこの調査では、その金額は、年収7万5000ドル(約700万円)なのだという。さらに2018年、164カ国で170万人の「個人収入と幸せ」について調査した結果がNature Human Behaviorという国際紙に発表されたのだが、なんとその幸福度がピークになるのは年収660万円あたりらしい。なんと、楽しみや笑顔といったポジティブな感情と相関する所得は、日本を含む東アジアでは6万ドル(約660万円)をピークに頭打ちになることが明らかになったのだ。つまり、660万円以上の年収があっても、年収のあがりに応じて楽しみや笑顔が増えることはないのだという。

えっ!! 660万円??? サラリーマンの平均賃金くらいで、まさかの幸せの頂点か・・・信じられん。あなたはもうどうだろうか? 超えている人は、もうこれ以上お金があっても幸せは感じない??

にわかに信じられない感じだが、一方でストレス、怒り、不安など、ネガティブな感情がわかなくなる所得は、東アジアでは5万ドル(約550万円)で頭打ちになり、550万円以上の所得の人たちでは、収入が増えているからといってネガティブな感情が少なくなる、つまり、ストレスが減るわけでもなかったが、こちらの方は納得だろう。お金があるからと言って、ストレスや不安が消え去ることなんて絶対ない。だって、コロナ禍の今は、まさにお金があろうがなかろうが、不安しかないだろう。今日住むところも食べるところもない人が不安100%だとしたら、年収550万円の人が50%に減るのかもしれないが、年収1000万円の人は30%に減っているのではなく、逆に不安やストレスは500万円の人よりも増えているような気がするのだ。資産が多くなっても、その分トラブルや責任感や危機管理がかなり増大するだろう。

では一体、一番幸せを感じる年収ってどのくらいなのだろうか? 実は、ポジティブな感情が高まり、ネガティブな感情が減る所得を合わせて考えると、ちょうど年収約700万円が感情的安定が得られるらしいのだ。つまり、年収700万円以上だと、精神的に健康なのだろう。ただ、それとは別に、人生における全体的な満足度(人生への評価)は、東アジアでの飽和値が11万ドル(約1,210万円)なのだそうです。精神的に健康になっても満足はしていない。人生の満足を得られるのはかなり年収が高いのだ。これは確かに納得だが、人生の満足のピークが1200万円程度であれば、年収1億円とか10億円の人たちって、大満足しているのかと思ったら、結構幸せじゃないのだ。んーん。庶民の私にとっては何となくうれしいニュースかも(笑)

しかし、日本独自で2020年に内閣府の発表した「満足度・生活の質に関する調査」では、世帯年収が3000万円~5000万円までは年収の上昇に応じて総合主観満足度が高まるがここで頭打ちになり、そこからは年収の増加に伴って満足度が下がることが示されている。世界的に見ると、ピークが1200万円なのに、日本独自だと年収5000万円程度まで跳ね上がるとは、やっぱり日本人ってがめつい人たちの集まりなのか(笑)

何れにせよ、年収が増えるにつれて自分の人生を高く評価する傾向にある日本人でも、日々感じる幸福感は、年収660万円を超えると高まってははいかない、つまり、お金で買える幸せなんて限られているのだ!! これはとっても素晴らしいことではないか!

では、お金を超えた何が幸せの持続に繋がるのだろうか?

まず考えられるのは、「他人と比較しない」ことだろう。年収1000万円でも、隣の人が2000万円だと知ったら満足はしないのだ。比較しなければ、確かに年収700万円程度で十分生きていけるのだから、それはそれで幸せなのだ。

そのほか、「立てた目標に対し、努力をし、その目標を達成する」という方法もある。年収に限らず、自分の夢や目標を達成することは実に幸せだ!! 日本の100名山を制覇するとか、絵画展に出展するとか、カラオケで100点目指すとか、どんな目標でもいいのだ。それを達成すること間違いなく幸せだ。

ということで、今年から、目標を立ててそれをクリアすることにより、幸福感を増大させ、永遠に幸せな気持ちでいられるようにしようと思う・・・。

あなたは今年の目標を何にしますか??

私? 私は当然「世界平和」ですよ!! ン、待てよ・・・達成できないとストレスが増えるだけだな・・・

では、このコラム読者からの「面白かった!メール」にしよう!!

さあ、あなたのその手で・・・今すぐに人を幸せに・・・(笑)

・・・・CEOコラムバックナンバーはこちらから→ https://www.iva.jp/nposouken/ceo_column.html

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。皆様は年末年始をどのように過ごされましたか。私の場合、例年年初にお墓参りに出かけるだけで、それ以外はほとんど外出しないので、ほぼ今まで通りでした。変わった点といえば、干支の置物を置いているところにアマビエが新たに加わったことでしょうか。これで状況が少しでも良くなればと願っています。(たま)